

経済連だより

新しい鶏ふん処理剤が出来ました！

養鶏産地の大型化につれて、各地で鶏ふん処理が大きな問題となっている。

新処理剤「ドライエース」

◎新処理剤を発明したのは県園芸連対波部長、神島化学板野技術課長両氏その後経済連、県養鶏試験場、大型養鶏場などで試験を致しました結果、本格的実用化になりました。

◎鶏ふんの水分を減じ悪臭を除きウジやハエの発生をおさえますので、鶏ふん処理が容易になり、環境衛生も改善されます。

周囲の人家にも迷惑をかけない、清潔で衛生的な養鶏になります。

◎新しい処理剤はリン酸分の多い石こうを焼いて酸性の焼石こうにし、これに2%程度の硫酸第一鉄を混合したもの。石こうの中の遊離酸がアンモニアと反応すると同時に硫酸はアンモニア、硫化水素と反応して硫酸、硫化鉄となるため、鶏ふん中肥効成分を固定したまま脱臭できるわけ。また結晶水を失った焼石こうは水分を吸収して固まるので集荷も便利になる。

これまで鶏ふんは夏場になるとハエ、悪臭の発生源となって集団養鶏産地の大きな悩みだった。そこでいろいろな処理剤が考えられたが、処理方法が複雑でなかなか肥料として使えなかった。簡単に生石灰を使うと、アルカリ性発熱反応を起こして肥効成分のアンモニアが気化する。またそのまま集めて乾燥する方法も集荷が不便で水分が多いため、重油などの燃料費やバーナー設備が高くなり、二次発行を起こす悩みもあった。

◎構造改善事業に鶏ふん乾燥機を設置して有機質鶏ふん入り肥料の製造も考えられている。

集めた鶏ふんを硫酸処理すればそのまま肥料として使えるし、さらに窒素ガスを吹き込んで窒素分を添加すれば有機質の完全肥料として農家に還元できる。

製造元 神島化学工業株式会社

岡山県発売元 岡山県経済連

価格 25kg 1袋 笠岡港倉庫渡

農協渡 200円、需要者渡 220円

詳細は県経済連畜産課に問合せ下さい。

“ハイラインひな 夏期特別価格について”

本年に入って県下へ導入されたハイラインのひなは、現在（5月25日現在）4万8千羽にのぼっています。

最近日本へ入ってきている外国ビナの価格は、売足が鈍って乱売の形になって来ています。

特にこれから夏期のヒナの需要の少ない時期に入ると、この傾向はさらに強く打ち出されてくると考えられることと、生産者の意向として、ハイラインは飼育したいけれども価格が高いので、良いという事は解っているが手がつけにくいという人が多いので、こうした事をお互いあわせて、次のように夏期特別価格が打ちだされました。

せいぜい御利用いただきたいと思います。

ハイラインひな夏期特別価格

期 間 昭和39年6月1日～8月31日

単 価（1羽当） 200円

◎ドライエースの基準散布量（キログラム）

糞の状態	散布回数	鶏 数 (羽)					
		25	50	75	100	200	300
下痢便	1日に1回	1	2	3	4	9	13
	3日に1回	3	7	10	13	26	39
	7日に1回	8	15	23	30	60	91
硬い糞	1日に1回	1	1	2	3	5	8
	3日に1回	2	4	6	8	16	23
	7日に1回	5	9	14	18	36	55

尚、産卵鶏の1羽1日の排糞量（飼料の重量に、ほぼ同じ）は130グラムとしました。